

薬剤師のお仕事

卒業生の保護者

私が大学を卒業した1980年代の初めは、今のように、**薬剤師の就職先ナンバーワン**で町のあちこちにある「**調剤薬局**」はほとんどなく、**病院か製薬会社に就職先はほぼ限定**されていました。そんな中、**実験が大好き**という単純な理由から**製薬会社**を選びました。



製薬会社の薬剤師

製薬会社の薬剤師というと研究開発部で試験管を持って仕事をしているというイメージを持たれているかもしれませんが、実際は社内のあらゆる部門で活躍しています。

まずは、研究開発部です。イメージ通り、医薬品成分の分析、動物実験などに携わっている人のほかに、役所に提出する許認可申請書を作っている人、特許の調査、出願などのデスクワークをしている人も大勢います。また、お医者さんと協力して薬の有効性、安全性を確認する仕事をしている人もたくさんいます。いずれの分野でも中心となっているのは薬剤師です。

次は、製造部や品質管理部です。原料、製品の品質チェックや、国の基準に製造設備が適合している事の確認は、製造業の根幹を担う大切な仕事です。これらの部門も責任者は薬剤師です。

こういった理系的な部門のほかに、営業部、物流部、商品企画部、お客様相談室、国際部などでも薬剤師が活躍しています。この様に製薬会社にはいたるところに薬剤師がいますが、資格がなくてもできる仕事が殆どです。会社は資格ではなく薬学部出身者としての素養を求めていると思います。

薬化学のほかに生化学、物理化学、薬事法規、等々の幅広い知識と応用力、それと語学力も重要でしょう。

さて、実験をしたくて入社した私ですが、白衣を着て成分分析をしていたのはわずか1年。2年目に商品企画部に異動になり、その後企画の仕事を15年間続けることとなります。商品企画部では添付文書や製品パンフレットの作成、営業部員やマスコミへの製品説明など薬剤師の知識を生かした仕事の他に、マーケティング、パッケージデザイン、社内の部門間調整など薬学とは無関係の仕事もたくさんしました。社外の色々な業種の人と一緒に仕事をする事も多く、非常に面白い仕事内容でした。



病院の薬剤師

さて、20年以上勤めた製薬会社を家庭の事情で退職し、専業主婦をしていましたが、薬剤師になったからには調剤を試してみたいと思い、公立病院に契約職員として勤務しました。人の生命に直接かわる病院の仕事は、薬剤師らしい仕事といえるかもしれません。実際の業務には、

- 薬剤師の専門知識を使って医師の処方箋をチェックし、ルールに沿った手順で調剤する
- 必要に応じて患者さんに薬の説明を行い、適切な治療が行われるようにサポートする。
- 患者のクオリティ オブ ライフ (生活の質) の向上を支える

等々があります

病院薬剤師の仕事は医療そのものを担う仕事です。正確さと集中力、薬の進歩についていく向学心を強く求められます。また、製薬会社と違い、薬剤師の資格が必要です。

病院薬剤師の仕事は、今後大きく変わる可能性を秘めています。近年、癌、感染症、糖尿病等の専門薬剤師という新しい資格が導入され、専門性を高める方向に進んでいます。例えば、ある癌治療に熱心な病院では、お医者さんの計画した癌治療のプログラムを薬剤師が国際基準に従って審査しています。また、臨床試験でも、病院内で医師と患者の掛け橋となる役割を期待され、それに対応した資格(CRC:治験コーディネーター)も出ています。また、医師、看護師等の様々な医療関係者とチームを組んで治療にあたる、いわゆるチーム医療の一員としての役割も増加するでしょう。

その一方で、病院は公立、私立を問わず経営が厳しく、薬剤部も人件費削減的になっているという現実もあります。これからは、どういった病院で働くかにより、薬剤師としてどういう仕事をするかが、かなり違ってくると思います。



調剤薬局の薬剤師

私はというと、自治体の病院経費削減のあおりを受けて契約の更新はならず、調剤薬局に転職しました。

調剤薬局での仕事は病院と同じく、正確さと、集中力、薬の知識が求められます。病院との違いは、接客業という側面が大きいことです。患者さんの思いはさまざまです。1分でも早く薬をもらって帰りたい人、薬について詳しく聞きたい人、病気の悩みを聞いて欲しい人、世間話をしたい人等々…。患者さんが何を望んでおられるのかをキャッチし、それぞれに満足のいく対応をする必要があります。また、医師の指示のもと患者さんの家を訪れ、薬の管理や服薬指導を行うこともあります。

薬や病気について気軽に相談できる…。調剤薬局の薬剤師は、そんな身近な存在であることを望まれていると思います。



最後に

薬学部の新設ラッシュで薬剤師の数が増え、薬剤師が余る時代がそこまで来ているといわれています。一方で、専門性の高い国家資格であることや、薬学部(6年制)を卒業しないと薬剤師国家試験を受けられない、という特殊性は今後も続きます。また、医療や薬の重要性はますます高まるでしょう。何か資格を持って社会に出たい、医療に興味があるといった方は、進路のひとつとして考えてみられてはいかがでしょうか。